

港湾局長の海外出張について

令和 6 年度の港湾局長の海外出張についてお知らせします。

1 出張者及び出張先

出張者： 港湾局長 松川 桂子

出張先： オランダ（ロッテルダム）、ベルギー（アントワープ）

2 出張期間

令和6年6月 23 日（日曜日）から同月 28 日（金曜日）まで（4泊6日）

3 出張用務

ロッテルダム港湾局と姉妹港締結 35 周年を記念して記念行事を実施する。

また、ロッテルダム港及びアントワープ・ブルージュ港の港湾管理者等を訪問し、管理や運営に関する情報を収集する。

4 経費

1,832,590 円

5 同行者数

2名

6 出張先での行動

6月 23 日（日曜日）

移動日（成田→アムステルダム）

6月 24 日（月曜日）

ロッテルダム港訪問

（姉妹港締結 35 周年記念行事、港湾管理者との意見交換、コンテナターミナル等視察）

ニチレイ・ホールディング・オランダ B.V.訪問

日本通運オランダ B.V.訪問

6月 25 日（火曜日）

移動（ロッテルダム→アントワープ）

アントワープ・ブルージュ港訪問

（港湾管理者との意見交換）

6月 26 日(水曜日)

アントワープ・ブルージュ港 コンテナターミナル等視察

6月 27 日(木曜日)

移動日(アントワープ→成田)

6月 28 日(金曜日)

帰国日

7 出張の成果

(1)オランダ

ロッテルダム港と東京港の姉妹港締結 35 周年を記念した記念行事を行うとともに、港湾施設の視察を実施した。姉妹港提携 35 周年に当たり、ロッテルダム港と取り交わした覚書には、港湾のデジタル化やカーボンニュートラルの実現に向けた共同検討及び情報交換を推進していくことを新たに盛り込み、今後は両分野においても連携を強化していくことを確認した。コンテナ貨物取扱量が欧州1位であるロッテルダム港では、生産性向上のためターミナルの自動化が進められており、自動荷役の様子を視察することができ大変参考になった。また、港湾の脱炭素化やデジタル化に積極的に取り組んでおり、グリーン水素の活用に向けた取組やシステムを利用した物流の効率化について有意義な意見交換を行うことができた。

また、ニチレイ・ホールディング・オランダ B.V.及び日本通運オランダ B.V.を訪問し、各物流施設の視察を行うとともに、物流におけるデジタル化等について意見交換を行った。

(2)ベルギー

港湾管理者及びコンテナターミナルを訪問し、港湾経営等に関する意見交換を行うとともに港湾施設の視察を行った。

2022 年にアントワープ港とゼーブルージュ港が統合され設立したアントワープ・ブルージュ港では、脱炭素化に向け様々な実証実験が行われている他、陸上電力供給設備の設置等も進んでおり、今後の進め方や取り組む上での課題等について、大変参考になる意見交換を行うことができた。

8 お問い合わせ先

港湾局港湾経営部振興課

03-5320-5529